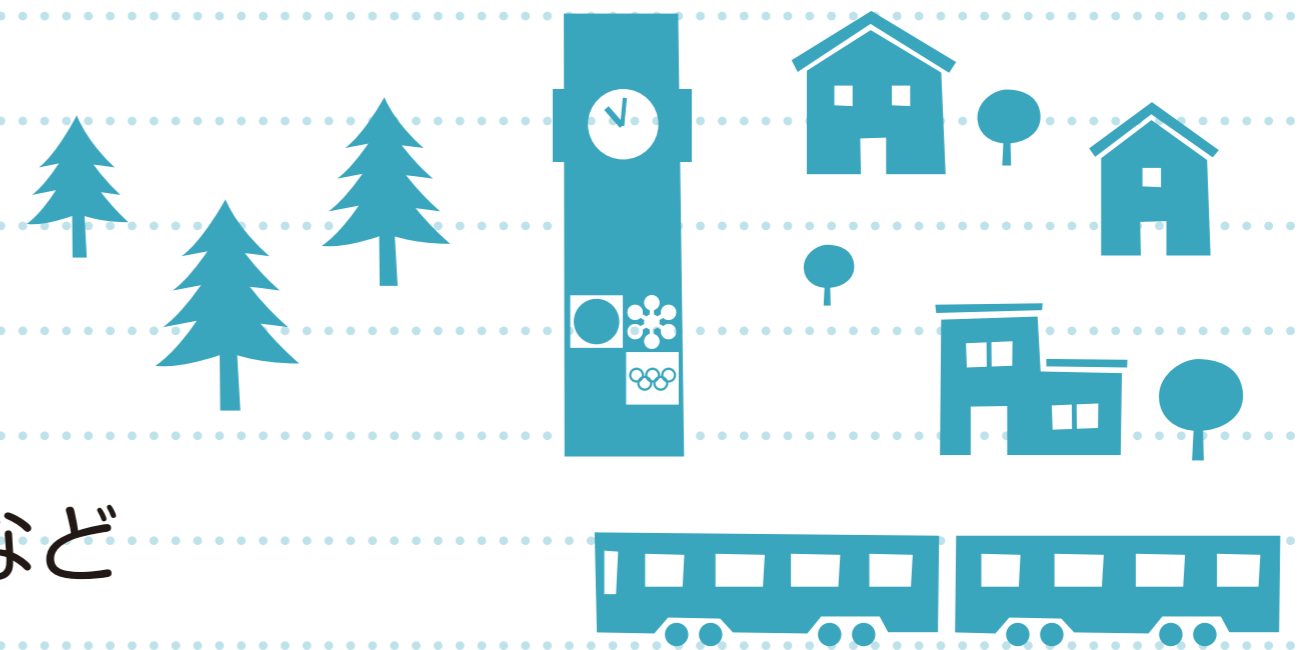


真駒内の今

真駒内にはいいところがいっぱい！

- みどり豊かな自然に恵まれたゆとりある居住環境
- 芸術の森、定山溪など芸術・観光拠点への玄関口
- 地下鉄があって便利
- アジアでの初めての冬季オリンピックの主会場 など

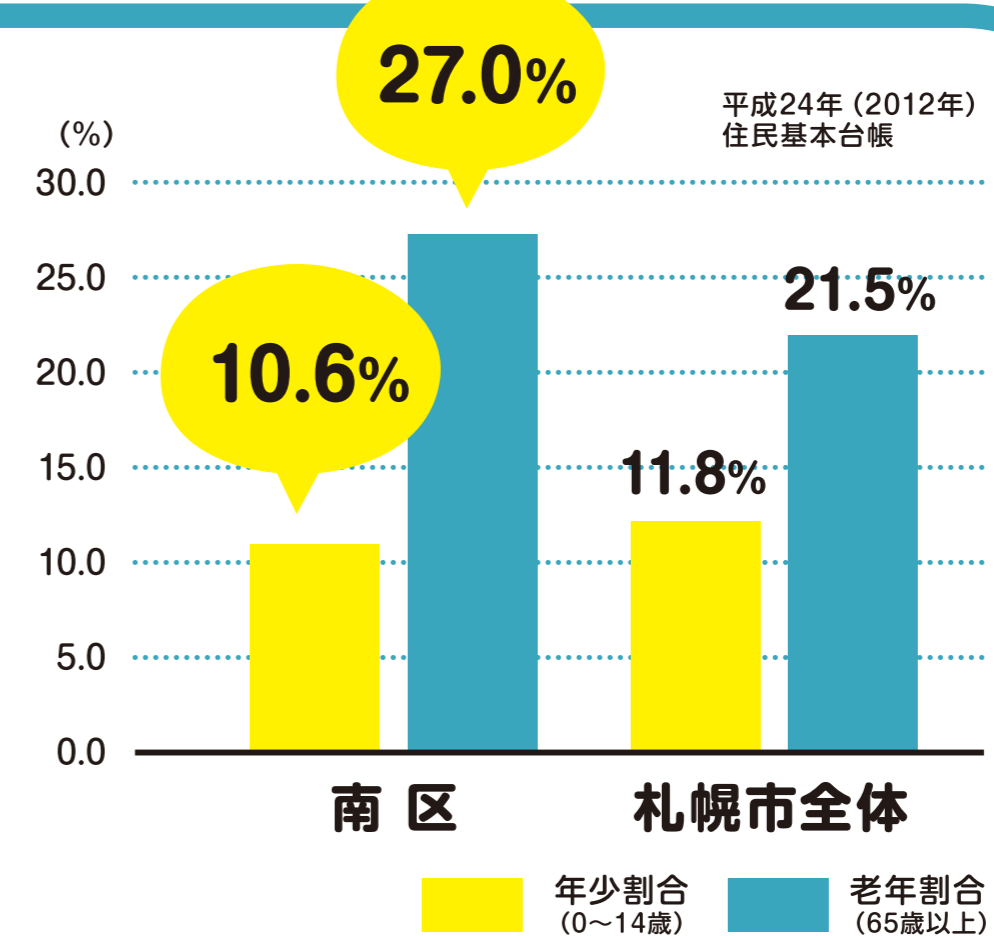


でも、いま真駒内は大きく変わりつつあります。

まちの姿
1

最も大きな変化は、「人口減少と少子高齢化」！

南区は市内10区の中で少子高齢化が最も進行しています。真駒内では人口が昭和60年（1985年）をピークに減少し続けており、ここ最近の10年間では約10%の人口が減少しています。



まちの姿
2

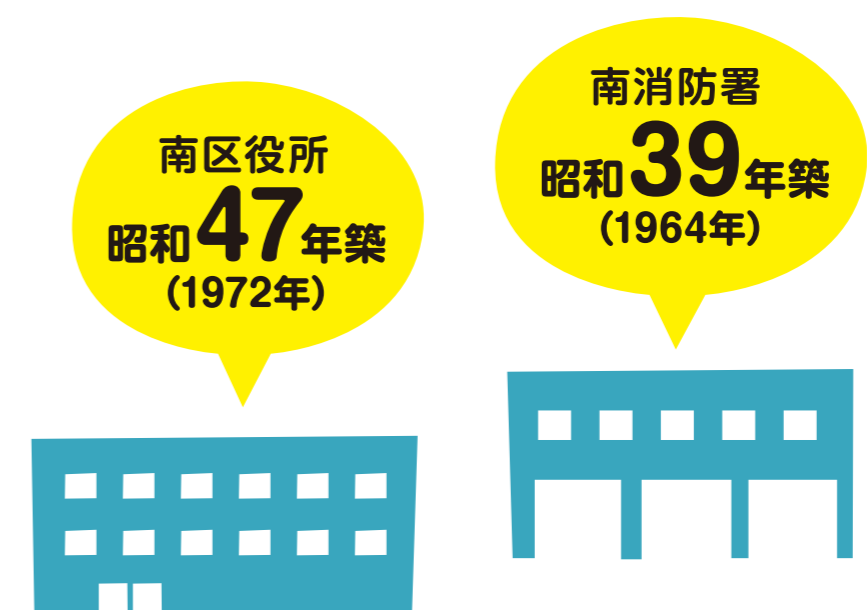
小学校の統合と閉校

真駒内の人口構成の変化を受けて、平成24年（2012年）4月には地域の小学校4校が2校に統合され、小学校として使われなくなった旧真駒内小学校と旧真駒内緑小学校の跡利用の検討が必要となりました。

まちの姿
3

オリンピック開催から40年以上公共施設も老朽化！

多くの公共施設が昭和47年（1972年）のオリンピックや政令指定都市移行の前後に建てられたもので、建替えに向けた検討が必要な時期にさしかかっています。



指針ができるまで

地域住民の皆さんとの意見交換から始めました

これまで札幌市では地域住民の皆さんとさまざまな機会をとおして直接意見交換をする場を設け、真駒内地域の課題やまちづくりについて一緒に考えてきました。

平成22年10月2日

平成22年度マイタウンーク

[テーマ] 小学校の跡利用・
真駒内駅周辺に係る交通課題

平成23年9月10日

平成23年度マイタウンーク

[テーマ] 真駒内駅周辺に誘導すべき機能・
中長期的な土地利用の方向性・小学校の跡利用

平成23年11月28日

出前講座

[テーマ] 真駒内駅周辺に誘導すべき機能・
中長期的な土地利用の方向性

平成23年12月13日

真駒内駅周辺のまちづくりを考える学生意見交換会

[テーマ] 真駒内駅周辺に誘導すべき機能・中長期的な土地利用の方向性

平成25年3月11日～4月9日

パブリックコメントの実施

全市民を対象に、まちづくり指針（案）を公表して、幅広く意見を募集

平成25年3月14日

真駒内駅前地区まちづくり指針意見交換会

[テーマ] 「真駒内駅前地区まちづくり指針（案）」についての説明・旧真駒内緑小学校の活用について意見交換



そしてできたのが 「真駒内駅前地区まちづくり指針」!

皆さんの意見をふまえて、
駅前地区のまちづくりの目標と取り組みの方向をまとめました。

「まちづくり指針」とは、地域住民などと札幌市が確認・共有する
今後の取り組みの方向を示したものです。

指針の内容は大きく分けると3つの内容となりました。

- ① 真駒内駅前地区のまちづくりの目標（基本方針・基本目標）
- ② 当面の取組 ～旧真駒内緑小学校の活用～
- ③ 将来的な取組の方向 ～駅前地区の土地利用の再編～

詳しくは、実際の「指針」を見てみよう!
皆さんから寄せられた意見もたくさんのもってるよ!



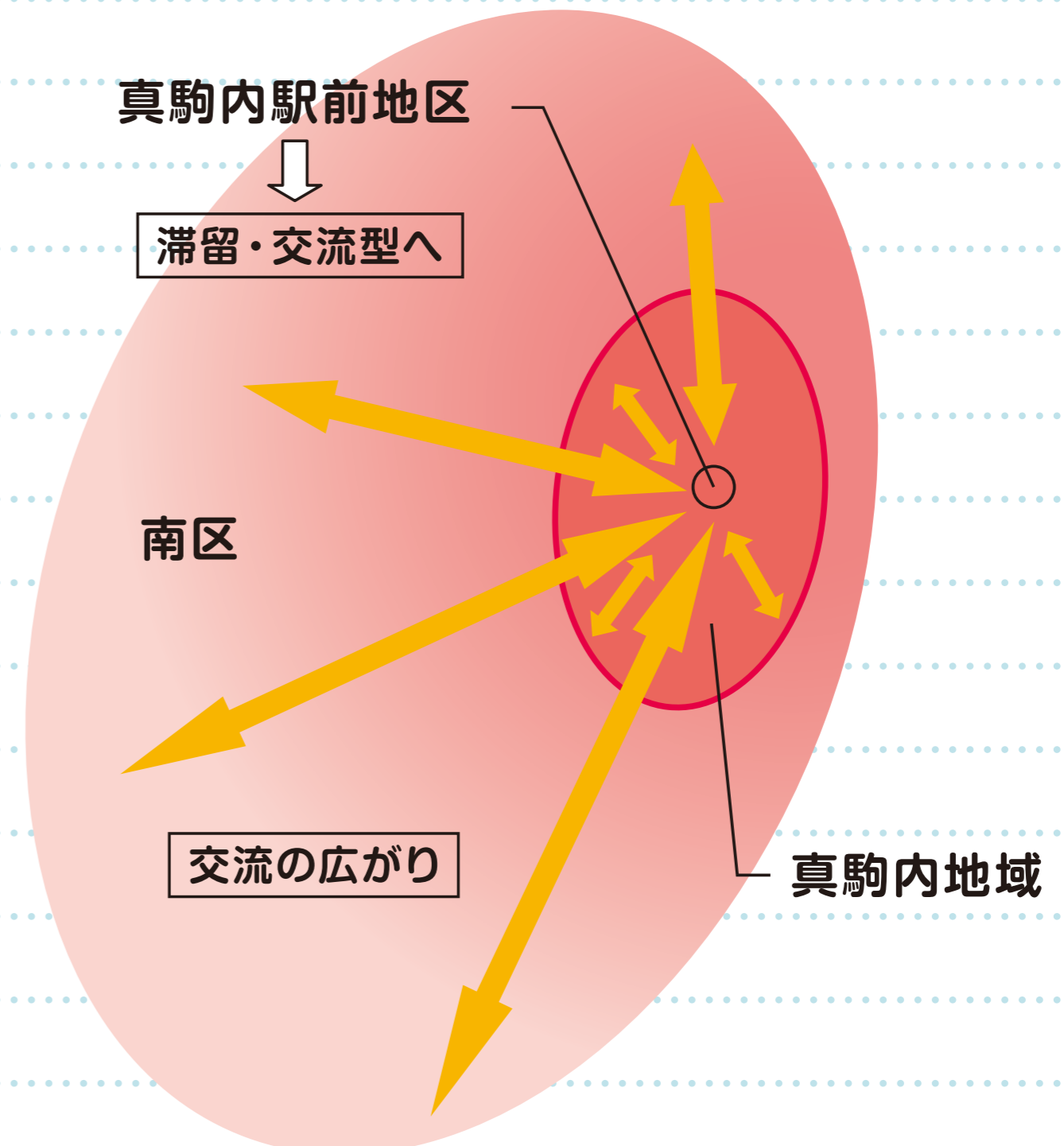
まちづくり指針①

まちづくりの目標

真駒内地域はもとより
南区全体の拠点として、
駅前地区の再生に向けた
取組を展開します。

基本方針

- 通過型から人が集まる滞留・交流型の駅前地区へ
- 駅前地区の活動と交流の広がり
で南区全体の魅力向上へ



基本目標

目標1

駅の拠点性を活かした にぎわい・交流の創出

<取組の例>

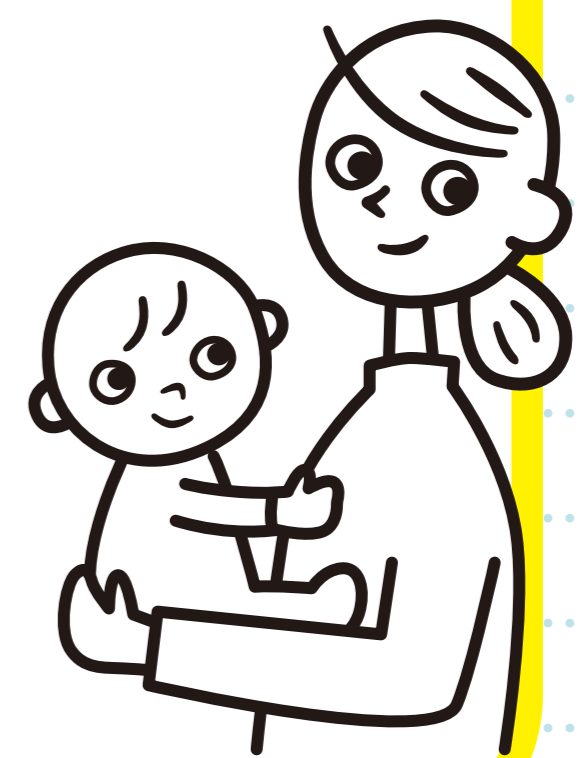
- 駅の利便性を活かした生活利便機能の誘導など、
地域内外の多様なニーズに応える複合的な土地
利用の推進
- 大学等、真駒内地域周辺の教育機関の立地を活か
し、それらの関係者など地域内外の人々が利用し、
多様な交流が生まれる場の形成
- 後背地の芸術文化拠点・観光拠点を訪れる人々の
滞留・交流の場の形成
- 地下鉄始発駅としての機能向上等による交通結節点
機能の充実

目標2

安全で安心な暮らしを 支える機能の確保

<取組の例>

- 子育て環境と高齢福祉機能の充
実・強化(子育てや高齢化に対応
した生活サービス機能の誘導)
- 歩行者・自転車・自動車ともに
安全で快適な駅前環境の形成



目標3

多様なコミュニティ活動が 展開する場の形成

<取組の例>

- お年寄りから子どもまで、誰もが気軽に集い、
交流できる場の形成
- 誰もがまちづくりに参加し、地域課題の解決や
活性化に取り組める機会や場の形成
- 地域コミュニティを支える複合的な
サービス機能の充実・強化



目標4

みどりと歴史を感じ、環境にも やさしい街並みづくり

<取組の例>

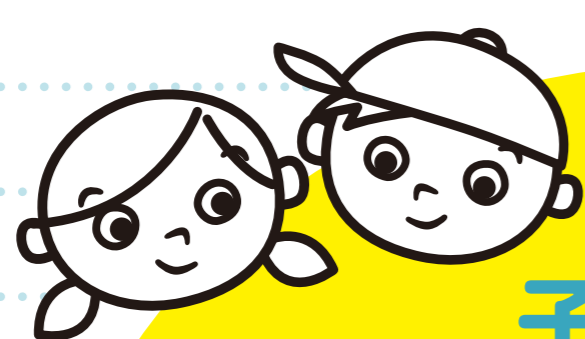
- 自然環境や歴史・文化資源など、真駒内らしさを
備えた駅前の街並みづくり
- 既存のエネルギーネットワークの活用を検討する
など、環境にやさしい空間の形成



まちづくり指針② 当面の取組 旧真駒内緑小の活用

平成27年度オープン！ 多様な連携や交流が生まれる場！

旧緑小が変わります！ 札幌市立大学をコーディネーターとし、
大学、行政、民間事業者、地域住民らが連携する
新しいまちづくりの拠点が誕生します！



1.

子どもの 体験活動の場の設置

旧校舎・体育館等の一部を活用し、子どもの自主性と社会性を育むことを目的に、多様な体験機会（例：昔遊び・ダンス・工作、また、それらを通しての多世代交流など）を子どもに提供する場を整備します。

3.

札幌市立大学による まちづくりの 拠点スペースの設置

札幌市立大学が札幌市や地域住民等と連携しながら、南区のまちづくりについて調査・検討を行うとともに、旧真駒内緑小学校における諸活動のコーディネート等を行う場を設置します。

3F

民間事業者

札幌市立大学
拠点スペース

2F

ちあふる・
みなみ

1F

子どもの
体験活動の場

カフェスペース

グラウンド

南区駐車場

さらにカフェも誕生！
多世代交流・
地域連携の場を
創出します。



2.

仮) 南区保育・子育て 支援センターの設置

(ちあふる・みなみ)

旧校舎の一部を活用し、3歳未満児を対象とした小規模保育と常設の子育てサロンを実施する、仮) 南区保育・子育て支援センターを整備します。

4.

民間事業者への貸付

旧校舎のうち①～③以外の部分について、地域連携事業の実施等を条件として民間事業者へ貸し付けます。なお、貸付先については、地域連携事業等の提案を求める公募プロポーザルにより選定します。



まちづくり指針③ 将来的な取組の方向

駅前地区の土地利用の再編

将来的には駅前地区の土地利用を計画的に再編し、
拠点機能のさらなる向上と
環境にやさしいまちづくりの実現を目指します。

土地利用再編の基本的な考え方

- 多くの人が利用しやすいよう、行政・公共サービス機能を地下鉄駅に近づけて配置
- 生活利便機能や滞留・交流空間等の充実のため、民間活力の導入可能性を検討
- 新たな機能配置に対応し、交通結節点機能の向上を検討

土地利用再編のイメージ

○公共・民活エリア

老朽化した市有施設を再配置するとともに、余剰地への民間活力の導入を図ります。

○中学校エリア

公共・民活エリアの予定範囲に立地している真駒内中学校の建替用地とします。

○保留エリア

上記2つのエリアでの施設配置が困難な場合、公共施設用地として活用します。

※このイメージは、対象区域内の既存市有施設を再配置することを前提としたものであり、土地利用再編が具体化する段階で配置すべき施設を改めて検証・協議し、柔軟に対応することが必要となります。

